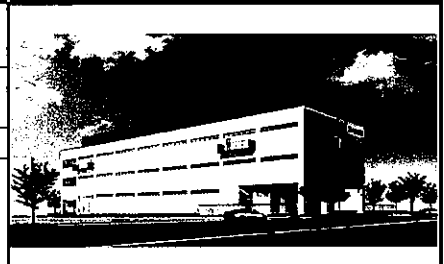


# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大光印刷亀岡新工場	階数	地上3F
建設地	京都府亀岡市大井町小金岐四丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	40人
気候区分		年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年9月 予定	評価の実施日	2012年9月30日
敷地面積	2,099 m <sup>2</sup>	作成者	東畑建築事務所 近藤睦
建築面積	1,408 m <sup>2</sup>	確認日	2012年10月5日
延床面積	4,063 m <sup>2</sup>	確認者	東畑建築事務所 近藤睦



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 7%  
 ③上記+②以外の 89%  
 ④上記+ 89%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 区画整理事業により面整備された工場施設誘致地区内に、当該地区計画・景観誘導基準に沿った建物とし、最大限の土地有効活用を図りながらも屋外環境においては京都府緑化促進基準以上となる自主緑地の整備も行っている。		(注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 印刷工場という特殊環境条件下においても、就労において事務所並の執務環境を提供している。また化学汚染物質を含有しない建材を採用して居住環境の快適・安全性を確保している。	<b>Q2 サービス性能</b> 執務空間は空間面積・高さにゆとりのある十分な大きさを確保して、執務環境の工場及び将来の設備更新に対応しやすい配慮を行っている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 区画整理による工場施設集積地としての地区計画に即した外観計画を行い、屋上設備機器類も外部から視認されない目隠し配慮を行っている。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電装置を設置している	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型衛生器具を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 可能な範囲の緑化整備に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される